

世界に広がるSGI = 地球家族が奏でる幸せのメッセージ

自己紹介



この半世紀に見る創価学会とSGI



大誓堂での勤行会の点描から

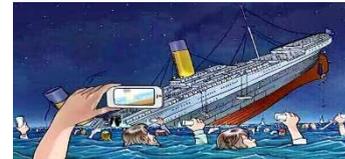


インド創価学会の驚異的な発展の背景



横田基地のアメリカ人メンバー

なぜ外国人が仏教を求めるのか



世界で語られている日本人のジョーク

私自身の入会と信仰体験



「は・げ・あ・た・ま」をモットーに

プロフィール 清水 武 (しみず たけし)



1941年生まれ 早稲田大学卒 NHK学園高校教諭 聖教新聞パナマ特派員として南北アメリカ、ヨーロッパを訪問 定年後に横田基地内のセントラル・テキサス・カレッジ、スペインのマラガ大学に留学 世界文学紀行で15作品の舞台を訪ねる これまでの訪問43カ国 現在は英語講師、スペイン語講師、海外留学アドバイザー シニア大衆登録講師 日本ペンクラブ会員 東京都観光ボランティア

ホームページ：<http://donky.la.coccan.jp/>



あいさつ

セミナーにお呼びいただきありがとうございます。川口と言えば、もう半世紀近く前、吉永小百合が演じた「キューポラのある街」の映画の舞台（1962年）であり、54年前（1964年）の東京オリンピックでは、川口の鋳物で聖火台が作られたと聞いております。そんなゆかりのある街に来られてとても嬉しく思っております。

自己紹介

最初に簡単な自己紹介をさせていただきます。住いは青梅線沿線の昭島市です。中央線と武蔵野線を使い1時間あまりでやってまいりました。

20歳で創価学会に入会して56年。この3月には喜寿、77歳になります。

現役時代には大学（早稲田）を卒業すると、国立市にあるNHK学園高校の教諭を務め、その後、聖教新聞社（創価学会の機関誌で現在、日刊約500万部です）に入り、中南米特派員としてパナマに派遣されました。この特派員だった10年間には、北南米大陸とヨーロッパを合わせて32カ国を訪れる機会に恵まれました。

そんな現役時代のつながりから、60歳の定年1年目には横田基地の中にある「セントラルテ キサスカレッジ」で英語を、2年目には南スペインのマラガ大学でスペイン語を学びレベルアップに努めました。

定年後まだ20年から30年はあるであろう人生への再投資のつもりでしたが、おかげさまで現在は英語やスペイン語の講師をしたり、週1回、SGI（「創価学会インターナショナル」の略称で海外の創価学会を指しています）で大誓堂<レジュメの写真>の勤行会に来日した海外メンバーのアテンドをしています。

昨日が担当日でしたが、偶然にもなんと日本のメンバーは埼玉の皆さん700人でした。川口の方がいるかどうかまではわかりませんが、昨日大誓堂に行った方、もしかしたらこの会場にいらっしゃいますか？

一方で、定年後のライフワークと定めた文学紀行で世界の名作の舞台を訪ねてきました。この10年あまりでシェイクスピアの「ハムレット」、ユゴーの「レミゼラブル」、セルバンテスの「ドン・キホーテ」<レジュメの写真>、トルストイの「戦争と平和」<レジュメの写真>、ミッチェルの「風と共に去りぬ」、モンゴメリーの「赤毛のアン」など計15作品の舞台を訪ね紀行文を書いてきました。

また、昨年からは東京都観光ボランティアの公式スタッフとして、新宿駅周辺で来日した外国人のアテンドをしています。2年後のオリンピックには通訳ボランティアとして貢献できればなんて夢を描いているところです。

はげあたま

さて、こちらにお邪魔して、会場に私と同じような仲間がいることを拝見して親しみを感じています。この頭です。先日、こんなことがありました。

私は年金生活に入ってから、現役時代と違ってできるだけ儉約を心がけるようにしています。散髪代もその一つ。床屋さんに行くのをやめ、けっこう手先の器用な家内がハサミで私の頭を刈っています。現役時代と違い、社内で身なりを整えるなどの気遣いがなくなったからです。本当はそれじゃいけないんでしょうがね

とはいっても、大事な行事に参加するときや、大切な人と会わなければならないようなと

きには、やっぱり床屋さんに行くんですね。

でも、この頭です。<頭を下げて指でさす> 他のお客さんよりも髪の毛のある部分がぐっと少ない。そこで散髪が終わり料金を払う段になって、店主に言ってみたんですね。

<落語の話し方で>

「マスター、ほらご覧のように、私の髪の毛の量はほかの人の半分以下ですよ。禿げている部分はまったく手をかけなくてもよいし……。だから料金も少しは割り引いてくれませんかねえ」。と、そこの主人、なんて言ったと思いますか？

「旦那さん、そんな無理をおっしゃらないでくださいよ。確かに旦那さんの髪の毛は少ない。ですから、私としては一本たりとも抜いたり傷めたりしてはいけないと思って、大変な気を遣ってハサミを動かしているわけですよ。逆にこちらが割増料金をいただきたいくらいですよ」

敵もさるもの、上手をいくもんですねえ。あの中高年のアイドル、綾小路きみまろさんだったらこう言うでしょう。「中学時代はイガクリ頭。高校時代は髪もふさふさの美少年でした。あれから 60 年——。昔は目の前が明るかった。今、明るいのはこの頭だけ……」

この頭の輝きのように人生も輝かせていきたい、というのが今日の私の話しのテーマです。

この半世紀に見る創価学会と SGI

最初に申し上げましたように、私は半世紀以上の間、創価学会の中で仕事と活動をし、実態も見てきました。今、海外のメンバーは 192 カ国地域に広がっています。

あの広いアフリカ大陸のほとんどの国にも仏教徒が誕生し、その国で活躍しています。そして SGI の研修会にも来日しています。彼らはまずアフリカから 宗主国だったパリやロンドンに出て、そこからまた 10 数時間かけて成田に飛んで来るわけです。もちろん、旅費も滞在費もすべて自己負担です。すごいことですよ。

かつて SGI 会長の池田先生が「21 世紀はアフリカの世紀だ」と言われましたが、まさに今その時代がとうとうと始まっているのを実感します。

それと私が感銘を深くしているのは、かつて社会主義の大国だったロシアでも、首都モスクワで、旧都サンクトペテルブルクで、また極東のウラジオストックなどで SGI メンバーが仏教を語り合う座談会を開いていることです。

大誓堂での勤行会の点描から

そんな SGI メンバーの状況が集約された一断面が大誓堂での勤行会です。本年 11 月に完成 5 周年を迎える大誓堂の勤行会には毎日、約 1000 人あまりの日本の学会員と共に 20 人から 100 人の海外メンバーも参加しています。国の数で言うと少ない日は 5・6 カ国、多い日は十数カ国からやってきています。

そしてみんな、日本の学会員とまったく同じように「ニジセソソ……」と経文を読み題目<南無妙法蓮華経>を唱えているのです。

遠くは日本の反対側ブラジルから 20 数時間と 10 数万から数十万円の旅費を使って来日するメンバーの熱い求道心にいつも感動しているところです。

インド創価学会の驚異的な発展の背景

来日する海外メンバーで最近、特に注目されるのはインドです。

インドに行ったことがある方はいらっしゃいますか？インドの人口はどのくらいでしょう

か？ そう、13 億ですね。

インド人はもともと彫りが深く哲学的な顔で、女性はカラフルなサリー（肩掛け）をしているのでとても目立ちます。時には 30 人、40 人のグループで来日。昨年は青年部員 200 人が研修会で来日するようなこともありました。

私はその発展の秘密を知りたく、一昨年 11 月、インドを訪ねました。この時は文学紀行ではなく、首都デリー見学やタージマハールなどを訪れる観光がメインでしたが、デリー近郊の創価菩提樹園も訪問、またインド創価学会の中心者の一人からも話を聞くことができました。＜レジュメの写真＞

その説明によると、56 年前、1961 年に池田先生が初めてインドを訪れたときには、永住している学会員は一人もいませんでした。3 度目の訪問となる 1979 年、初めて 40 人が先生のもとに集まった。

先生は「ガンジス川の悠久の流れも一滴から始まります」とメンバーを激励。その指導を胸にインド創価学会は着実な前進を遂げ水かさを増していった。そしてインド社会の発展と符合するかのように入って急速に発展していったのです。

宿命や業の存在を信じるインド人にとって「宿命転換」の法理を掲げる日蓮仏法は非常に魅力的で、創価の思想に触れた人は、日蓮仏法を「生きた宗教」として実感している、とのことでした。

インド創価学会の特色は青年が多いことと英語ができることです。人口 13 億という広大なインドには幾十もの言語があり最も使われている公用語はヒンディー語です。英語は第二公用語。この英語ができる人というのは一般に知識階級で結果的に、優秀な人材が入信し社会でも信頼を勝ち得ている。インドはコンピューターではアメリカに次ぐ大国。IT 産業で活躍しているメンバーも多いようなのです。

実際、5 年ほど前、信濃町の SGI 本部で来日したインドのメンバーをアテンドしていて「エッ」と驚いたことがありました。彼がこともなげにこんな風に言ったのです。「Mr. Shimizu、明日の午後はカルロス・ゴーンに会うことになっているんですよ」

カルロス・ゴーンがどんな人か皆さんご存知ですよ。日産のトップ、日本経済界の超実力者の一人です。国内の日産の課長や部長クラスでもめったに会うことはできないでしょう。後で分かったことは彼はインドの日産代理店の副所長だったんですね。

コンピューター関係で日本の大企業で研修をしているインド人メンバーもいます。インド本国の実態がそのまま反映してうなずけるような気がします。

今インド創価学会は 15 万人を超えた、とのこと。

会館の建設は法律上難しいこともあることから、今では全国で 200 人ほどが個人会館を提供している。なかには 300 人を収容する個人会館を提供している人もいる、とのことでした。

釈尊が布教した国でありながら仏教が衰退しヒンズー教やイスラム教が広まったという歴史のあるインドで今、蘇生した仏教が力強く流布しつつあるのをかいま見る思いでした。

インドは人口ではまもなく中国を抜き、また経済力でも 50 年後には世界のトップに躍り出るだろう、との分析もあります。インドの国自体の発展、それに合わせるようにインド創価学会の素晴らしい発展を見るにつけ、今まさに「インドの時代」がやってきつつある、との実感を強くした次第です。

横田基地のアメリカ人メンバー

ここで、世界が宗教をどう位置づけているか、身近な一例として私が関わっている国内の外国人メンバーの状況をお話してみましょ。それは、横田基地にあるアメリカ人メンバーのグループのことです。

横田基地に入った方はいらっしゃいますか？

東京にあることから日本に駐留する米軍の中心基地になっています。敷地の大部分は福生市に属していますが、私の住む昭島もその一部が入っています。ごく最近では、トランプ大統領が成田でも羽田でもなく、米軍の基地に降りたことでテレビのニュースにも何回か映りましたよね。

ここにSGIの組織として「サンタメリカ」と呼ばれるグループがあります。「サンタメリカ」という名前は、“三多摩のアメリカ”という意味で、メンバーは基地で働くアメリカ人とその家族が中心です。

今から20数年前、私は特派員から帰国してまもなくその組織の支部長に任命されました。それから1年後、サンタメリカは仏教団体・創価学会の支部の一つとして、横田基地の宗教局に正式に登録されました。この登録によって、私たちはキリスト教やユダヤ教とまったく同等に扱われることになり、次のような特典が与えられたのです。

- チャペル(教会)の施設を、いつでも会合などに使用できること。
- 病院や図書館など公共の施設に、仏教またSGIの書物やパンフレットを置くことができること。
- 基地で発行している新聞や基地内の放送に必要なお知らせを載せられること。
- 遠くでの行事に空軍のバスが無料で提供されること。などです。

まずは教会、チャペルです。基地のゲートを入れてすぐのところ、広い駐車場を持った明るい感じの教会があります。100人ほどを収容できる本堂のほか、10人から50人を収容可能な大小五つほどの部屋があり、どんなイベントに使ってもよいといえます。

本堂には、キリストの像も十字架もありません。40年ほど前から、特定の宗教の本尊を置くのは禁止されることになった。「ユダヤ教でもイスラム教でも仏教でも、必要であればその行事のときに本尊を安置して結構です」とのこと。つまり、すべての宗教に公平、中立なのです。

私たちは、チャペルを使って会合をもっています。ご本尊を置いて勤行もします。館内は冷暖房が良く効いており、椅子やテーブルもそろっていてとても使いやすいですね。

基地内での新聞や放送といえば、ある日、私が車で昭島市内を走っていたとき英語のラジオ番組のなかで、サンタメリカのセミナーの行事が放送されているのを実際に耳にしました。「〇月〇日の午後1時から、〇〇センターで仏教のセミナーがあります。どうぞ自由にどなたでもご参加ください。歓迎します」といった英語放送です。

現在は基地の縮小とともにメンバー数も減ってきて、私はアドバイザーの立場ですが、支部長だった当時、この軍のバス提供による本部見学会を開催しました。小児科医で空軍の少佐でもあった地区部長が、車両部隊に行事計画とバス依頼申請書を提出すると、20人乗りのバス3台がOKとなりました。

中央道から首都高速へ。途中の料金所の通過が自分にとってはまた驚きでした。車はどれも左ハンドル。私は先頭車の右側の助手席に座りました。料金所で車両部隊から受け取った10センチ四方ほどの米軍専用のチケットを渡すと、料金所の係りの人はごく当然のように「どうぞ」と。こうして3台、往復計4つの料金所ともパスしたのです。基地が認めた公式活動。しかもガソリン代、高速道路料金も含めて費用は、いわば「横田基地もち」とも言えます。

この本部見学の際、仏教関係の書籍を多数いただき、今、横田基地の図書館には、日蓮大聖人の仏法またSGIを紹介した本が並んでいます。

これらは宗教そのものを大切にす民主的なアメリカの風土、機構からくるものです。ともすると宗教をうさん臭いものと見る人の多い日本とはずいぶんの違いですね。

しかも今、アメリカ国防総省の本庁舎ペンタゴン（英語で「五角形」の意味）には、各宗教が自由に行事を持てる期間があり、2年前からアメリカSGIではそのペンタゴンの建物の中で仏教セミナーを開催しています。会場には前線の将校なども出席しSGIへの理解を深めているようです。

<SGI グラフ、World Tribune の紙面の紹介>

また今、私は海外留学アドバイザーとしてSGIで日本から海外に留学する学生への指導もしています。

「ホームステイ先ではそのホースト（家主）に言っていきなさい。「I am a Buddhist」（私は仏教徒です）」と。「SGIメンバーといってもわからないからね。そして『仏教徒は朝晩お祈りをします』」と。つまり朝晩の勤行・唱題のことを言っているわけです。

実際に、その方が「信じている宗教はありません」などという留学生よりはるかに信頼が深くなる。「うちにはしっかりとした考えを持ったいい子が来た」と喜んでくれます。宗教のない人というのは逆に信用できない。宗教を大切にす欧米ではそんな傾向もあるからです。これが欧米の宗教に対する考え方と実態なのです。

なぜ外国人が仏教を求めるのか

ところで、インドはもともと仏教有縁の国でした。でもアメリカのように、本来がキリスト教の国、また歴史や文化・社会体制の違う国々の人がなぜ仏教をたもつにいたったのでしょうか？ いろいろな要因がありますが、一つは「三証」から見るができると思います。

<板書>文証、理証、現証、という三つの証拠。つまり教えを書かれたものがあるか（文証）、教義が道理に合い矛盾していないか（理証）、そしてその宗教を实践した結果、現実に生活が変わっていくか（現証）、といったものです。

文証で言えば、私どもには御書（宗祖・日蓮大聖人の書かれた論文やお弟子への手紙をまとめたもの）があります。欧米ではバイブル（聖書）が該当しますね。

理証について言えば、仏法は、因果の法則、生命の永遠、を根本に説かれており、矛盾はありません。

そして現証とは、宗教を实践した結果の証拠です。つまり信仰体験。これは、ここにいらっしゃる学会員のお一人お一人がつかんでいるものです。

次に、なぜかつて社会主義だった国、つまり「物を中心に考え平等に重きを置く、そして基本的には宗教を否定していた」国の人々が仏教を信ずるようになったのでしょうか。

それは 仮にモノの面で平等になったとしても（現実はなかなかそうなってはいません

ね)、人間本来の悩み、家庭不和、病気との闘いなど、仏教が説く「生老病死」(板書)という人間の根本的な悩みは、どんな社会体制に住む人間でも避けることはできないからです。

私たちの唱えている南無妙法蓮華経は、宇宙のリズム・法則であり、私たちの生命のリズム、法則です。わかりやすく言えば、ニュートンが発見した万有引力の法則と同じように、この生命の法則は宇宙に厳然とある法なのです。

約 2500 年前、インド (現在のネパール) に生まれた釈尊は、その生涯に膨大な量の教えと経典を残されました。その中で、最後の 8 年に説かれた法華経が最高の教えといわれていますが、実はその法華経の教えの究極が南無妙法蓮華経なんです。

他にも信心した友人の変わっていく姿に引かれて、とか入会の理由にはいろんな要素がありますが、海外の人の良いところは、見栄とか体裁、外聞を気にせず、よいものはよいと素直に認め実践することなんです。日本人の場合だと、よいと分かっても、自分の意志よりも、周囲の目を気にしてなかなか踏み切れない、といった面が往々にしてあるのを私は感じています。

世界で語られている日本人のジョーク

ここで、世界で語られている日本人についてのジョークをご紹介します。海に囲まれた島国・ニッポン。世界の中でも特異な存在である日本と日本人についてこんな小咄が流布しています。

よく知られたタイタニックのジョークです。たぶん、この会場にも知っていらっしゃる方もいるかもしれませんが……。<レジュメのイラスト>

「ゴ——」。<ジェスチャー大きく>

「いよいよ沈没しかけた船から、男も女も我先にと救命ボートへ避難しようとした。大混乱になろうとしている現場で、婦女子を優先させようとして船長が説得を試みます」

まずアメリカ人男性に：「キミはヒーローになりたくないか！」(解説)

イギリス人男性に：「あなたは模範的なジェントルマンだ！」(〃)

ドイツ人男性には：「君の国の法律ではそうなっているよ」(〃)

そして日本人男性には：「皆がそうするからあなたもそうした方がいいと思いますよ」

このように、日本人は、まず周りに合わせようとするんですね。周囲の目を気にし、突出することを恐れ、横並びを好み、他人のするように自分もする、という傾向を持っている。日本人は、他人の目を気にしすぎるように思います。それが、いざ何か新しいことを始めよう、また正しいと思われる宗教をやってみよう、という心の足かせになっているような気がします。

私自身の入会と信仰体験

この会場には初めて創価学会の会合に参加された方もいらっしゃるかと思います。そこで、最後に、私がなぜ入信したか、またその後どんな人生を歩んできたかについて少しお話してみたいと思います。

長野県の進学高校を卒業した私は大学受験に失敗。直後に母が脳溢血で倒れ長期入院して家庭の経済事情から進学を断念、上京し都内の小さな自動車部品販売会社で働いていました。そんなある日、会社の女子社員に創価学会の座談会に誘われたのです。出席してみる

と仏教哲学の一部が語られていました。話はやがて私を中心に展開していきました。私は率直に抱えている悩みや大学進学の話しました。

当時、私は「赤旗」を購読するなどそれなりに社会について考えていました。周囲の言うことをすべては納得できなかったのですが、「饅頭がうまいかまずいかは食べてみなければわからない。宗教もまずやってみて自分で体験をつかんでみてはどうか」との勧めで、ともかくも“試してみる”ことにしたのです。

そのころの私は住み込みで会社のビルの4畳半程の部屋に同僚と2人で寝ていました。時代は東京オリンピック（1964年）を前に、日本の経済は右肩上がり。東京へは地方から大勢の高卒の若者が働きに出てきて、会社の仲間たちもみんな地方からでした。

月給は1万円そこそこ。仏壇を買えるようなゆとりはありません。先輩のアドバイスで枕もとの壁にワイシャツの箱を画鋲で貼り付け、その中に御本尊を安置しました。勤行を始めると、会社の仲間が冷やかしかし半分に覗き見にやってきました。

しかも、当時のマスコミは学会の悪口をさかんに書いていました。

「創価学会は貧乏人と病人の集まりだ！」。

確かにそうした一面はあったと思います。でも、その批判に対して先輩の次の言葉は私にも強い確信を与えてくれました。

「偉そうなことを言っているけど、じゃあ、そう言う本人は、貧しかったり病気で苦しんでいる人にどんな救いの手を差しのべてきたんだい!？」

本当にその通りだと思います。一番、悩み苦しんできた庶民に手を差しのべてきたのが創価学会だったのです。

入信した私は慣れない勤行（法華経の一部を読む）と唱題（南無妙法蓮華経と唱えること）を始めました。その一方で、仕事をしながら必死の受験勉強もしました。そして半年後には幸いにも早稲田大学商学部合格することができたのです。

でも仕事が経理関係で大事な立場にあったため、すぐに会社を辞めるわけにはいかなかった。幸いに当時の学部は昼夜開講制だったので、仲間より早い時間に退社して大学へ。授業から帰ると再び会社で残った仕事を夜11時、ときには深夜まで取り組みました。

そんななか、思いもかけなかった嬉しいことが起こったのです。簿記も会計科目もある大学の授業が現場の業務にも通じているということで、なんと4年間の授業料を会社が負担してくれたのです。まさに信心の功德と言えらると思います。

幸いに経理関係の後継者ができて社長も快く退社を了解してくれたので、私は大学を卒業するとNHK学園高校の教諭の職に就きました。

その後、聖教新聞の特派員として主に中南米の国々を回っていましたが、大変だったときはいつも題目が困難を乗り越え、道を切り開く力になってきました。

うつになり人生のどん底へ

60歳で定年後は最初に述べましたように、南スペインのマラガ大学に1年間、留学しました。ところが帰国の半年後、私はうつになり、いつ死んでもおかしくないほどの人生最悪のどん底に陥ったのです。

まさか自分がうつになるなんて信じられなかった。妻も「そんなことは絶対はない」と信じようとしました。でも病状はまさにうつ症状そのものでした。

何に対しても自信がなく、決断力に欠け、夜もよく眠れなくなった。すべてが灰色に映り、

生きていること自体がつらくなり、時に自殺の考えさえ浮かぶようなこともありました。

原因はわかりませんでした。自由でのびのびとしていたスペインから忙しい日本に戻った環境の変化からか、子供の結婚問題等いろんな心労が重なった故からか、あるいは自分が人一倍まじめで心配性である性格からきたものなのか・・・。

そして、なんとというめぐり合わせなのでしょう！

その体調が最悪だった翌年の初め、前年の秋に頼んでおいた仕事のオファーが重なるように続いたのです。一つは、大学の通信教育部の英語講師。一つはNHK学園高校の添削講師。一つは昭島市内のカルチャーセンターのスペイン語講師。さらに、大学時代の友人が社長の会社から「社長室参与で」との話も受けました。しかしながら、これらの仕事のオファーも、体調の悪さを理由にすべて断わらざるを得なかったのです。

昭島市内の神経科病院に通い、何回かは都内の高名な専門医も訪ねました。また精神科のドクター部員のところも訪れました。

睡眠薬を処方され、強すぎたのか寝ていると身体が硬直したようになってしまうこともありました。病院に行く途中で、前から来る自動車が自分をひいてくれないかなあ（自殺をすると保険が出なくて残された家族が困る、なんて妙なところだけ意識が残っていて）、とか、妻にも心配をかけ続けた辛い日々が続きました。

どの仕事も断ってしまった後は、未来に絶望的な思いを抱いていました。朝起きると、何をすることもない長い1日が始まる。夜になるとまた暗く長い闇が始まる、と悶々とした日々でした。一時は仕事さえあれば、駅のトイレ掃除でも、とまで思うこともありました。

シルバー人材センターの仕事から立ち上がる

こうしたなか、やる気さえあれば誰でも受け入れてくれるシルバー人材センターの存在を知り会員として登録、まず、自転車整理の仕事から始めたのです。

JR青梅線 昭島駅南口の駐輪場。仕事仲間は10人。朝6時、たばこの吸い殻の落ちている駐輪場の掃除をしながら、「幸運にもせつかくいろいろなキャリアを積むことができたのに、それを生かせなくて残念だ」なんて思いもときおり生じてきました。

一方で「おはようございます」「いってらっしゃい」と利用者への声かけや、身体を動かしていることが治りかけた病状から完全復帰への大きな力になっていたと思います。

でも仕事は単純で、勤務も週3日か4日、1日4～5時間だったので、もう少し何かしなくては、と立川のハローワークに行ったら、偶然にも人材派遣会社が募集する都立高校のティーチング・アシスタント（先生の助手ですね）との仕事を紹介されたのです。続いて、英検受験者の指導、ということで都立日野高校と砂川高校へ。ここから現在に続く仕事が開けていったのです。

しかもそれ以来、以前にも増して元気になり意欲的になった。文学紀行を始め、新聞・雑誌に寄稿し、英語やスペイン語の講師もできるようになった。いわゆる「**変毒為薬**」<板書>（毒を変じて薬と為す）できたのです。

私の場合、幸いなことに病院での的確な療法と薬、妻の支えと祈り、関係者の励ましで1年弱でその苦境を乗り越えることができました。病気の間も勤行の大切なことは意識して取り組んだのですが、集中できず、時にはリン棒で自分の頭を血がにじんできるとほど激しくたたき、といったこともありました。

今思うに、うつを克服できた最大の力は、それまでの題目の蓄積があったからと、確信しています。人生極限の土壇場で蓄えてきた題目が自分を救ってくれた、との実感なのです。

一般に完治がなかなか難しいという病気です。私の場合、短期間でそれを乗り越えることができたのも、根底に信仰という強い軸があったからこそ、と思っています。

題目から挑戦の勇気が湧く

50年余りの信仰の中では大変なときもありました。仏法は魔法ではありません。創価学会の信心をしてもすぐに願いが叶い、すべてが順調になるとは限りません。自身の過去からの宿業という問題もあります。でも、何があっても題目でその悩みや問題を乗り越えようとする勇気が出てきます。「ようし」と挑戦の心が生まれてきます。生命力が出てきます。それがスゴイのです。

私も入会当時は会社の寮での勤行が恥ずかしかった。でも朝、題目を唱えていると命が躍動してくるようでした。いやな仕事でも前向きに取り組めた。その連続が現在の人生につながってきたと感じているところです。

創価学会の「創価」とは価値の創造を意味しています。信心とは無限の向上。どれだけ自分を高め、能力を発揮し人生を充実させていくか、社会に貢献していくか——池田先生はこれを「人間革命」〈板書〉との言葉を使い表現されています。

一方、困っている人を助け、世界の平和に貢献も創価学会の活動の大きな柱です。昨年末のノーベル平和賞に I C A N (International Campaign to Abolish Nuclear Weapons) が選ばれ、その支援団体として授賞式に S G I の代表も招待されました。

またローマのバチカンではフランシスコ法王も S G I 代表団との懇談で、S G I の活動を高く評価していました。

このように創価学会員の生き方は、個人としても団体の一員としても、人間として最も理想的で崇高な生き方だと私は思っています。

「ハ・ゲ・ア・タ・マ」をモットーに

最後に私のモットー「ハゲアタマ」をご披露しておきたいと思います。髪の毛が少なくても残念ながら散髪料金は安くならない。そこで私は「定年後を輝いて生きる」ために、率先してこの「はげあたま」的生き方を心がけています。

「はっらっ」と「げんきに」「あかるく」「たのしく」そして「まあるく」です。〈板書〉特にこの最後の「まあるく」が大事ですね。人生、すでに甘いも辛いも経験し、角が取れて「まあるく」なっているはずですから、今さら人間関係でギスギスしてもしようがない。穏やかに「まあるく」いくことです。つまらない顔をしていると、つまらない人生になってしまいます。

題目を唱え、生命に弾むような勢いがあれば、必ず人生も躍動してきます。私はこれからもこの「ハゲアタマ」をモットーに生きていきたいと思っています。今、髪の毛のふさふさの方も、どうぞこのモットーの実践だけはお勧めです。人生が明るく楽しくなってきます。

世界への仏法の広がり、文化比較から禿げ頭論へ、話しはあちこちに飛んでしまいました。皆さまのご参考となればこんな嬉しいことはございません。

以上で私の話を終わらせていただきます。長時間のご清聴ありがとうございました。